

研究活動報告

JICA Chair 講演 (コートジボワール・アビジャン)

セネガルにおける1週間あまりの高齢化に関わる調査の後、2026年2月13日にコートジボワールの首都アビジャンにて、「日本における人口ボーナスと高齢化に応じた社会保障制度の進展」と題する講演をフランス語で行った。これは国際協力機構のJICA チェア (JICA 日本研究講座設立支援事業) の一環で、コートジボワールのフェリックス・ウフェ・ボワニ大学と戸田国際財団が開催した第3回 JICA チェア国際会議においてであり、筆者の基調講演の後、コートジボワールの医療保険・年金担当部局、WHO、学術界からの専門家による報告とパネルディスカッションが行われた。

いまだ人口増加が進む西アフリカではあるが、高齢者数も今後20年間で倍増と大きく増加することが見込まれており、セネガル、コートジボワール両国の関係者は、高齢者に対する医療・介護・年金制度の急速な整備が必要である、という認識が共通してあった。逆に援助関係者にはそのような認識は浸透していないようである。(林 玲子 記)

第80回数理社会学会大会

第80回数理社会学会大会 (JAMS80) は、2026年3月7日 (土)・8日 (日) の2日間、日本大学 (東京都世田谷区) を大会校として開催された。本学会では、数理・計量分野の社会学研究について常に活発な報告・議論がなされ、今回も口頭報告25件、ポスター報告72件と大変盛況であった。

当研究所からは、以下の所員が発表を行った。

- 北村友宏・塚田祐介 (青山学院大学)・竹ノ下弘久 (慶應義塾大学) 「なぜ世代間で健康状態は継承されるのか? —世代間健康関連メカニズムの解明に向けて—」
- 北村友宏 「どのような親が子育てのために移動するか? —人口移動調査を用いた探索的分析—」
- 吉田航・尾藤央延 (東京都立大学) 「職場における隠れたジェンダー差別? 因果媒介実験を用いた昇進評価バイアスの検証」

生成 AI、とくに LLM (大規模言語モデル) を用いた研究がいくつも報告されていた点が、今大会の特色であった。生成 AI を用いたインタビュー調査に関するポスター報告には、つねに多くの聴衆が集まり、その特徴や応用可能性について活発な議論がなされていた。筆者 (北村) の発表においても有益なコメントが多数寄せられ、活発な議論を行うことができた。また、「人口移動調査」についても、調査そのものや質問内容に対して高い関心が示され、本調査の認知向上に一定程度寄与できたものと考えられる。2日目午後には学会設立40周年と数理社会学事典刊行を記念するシンポジウムが開催され、設立時の歴史が紹介されるとともに、今後の学会展望についても議論が交わされ、筆者 (吉田) 自身も大きな刺激を受けた。

今回の JAMS81 は、2026年8月に京都大学にて開催予定である。

(吉田航・北村友宏・戸高南帆 記)